

鹿屋市立笠野原小学校 特別の教育課程の実施状況等について

1 特別の教育課程の概要

本校では、令和3年度～令和4年度、市内全小学校が文部科学省教育課程特例校の指定を受け、下述の 時数を確保し、現行の学習指導要領（外国語活動・外国語科）を踏まえて、「英語科」として先進的な英語教育の実践研究を推進しています。

英語大好きな子どもたちをイメージし、小学1年生から児童の興味・関心や理解度に合わせた英語を使って段階的に指導し、小学校6年間を通して、総合的にコミュニケーション能力の基礎を育成し、小・中一貫による英語教育の推進を図ることを目指しています。

学 年	1年	2年	3年	4年	5年(教科)	6年(教科)	総時数
年間時数	20	20	35	35	70	70	250
使用する教材等	オリジナル	オリジナル	Let's Try!1	Let's Try!2	教科書 My Book Picture Dictionary	教科書 My Book Picture Dictionary	

鹿屋市の英語教育の目指す生徒像

「地球規模で様々な問題を考え、郷土の魅力を生かして、英語を使って、能動的に課題解決に向けた行動を起こす児童生徒の育成」子どもたちが英語の学習に主体的に取り組み、コミュニケーション能力を育成した結果、郷土の課題解決に貢献したり、グローバルな視点を持ち、郷土の魅力を世界に発信し、持続可能な社会の発展に貢献したりする人材の育成を目指します。子どもたち・先生方・学校・保護者・地域が一体となって、「わくわく」するような授業を一緒に作り、多文化共生社会を生き抜く「グローバル人材」を育成を目指します。

2 本校の教育目標

本校では、「瞳輝き よりよく たくましく 共に生きる 子どもの育成」という学校教育目標のもと、子どもたちが将来、自立し、幸せな生活を送るために必要な習慣（学習習慣、健康習慣、生活習慣）を育てている。学校生活では、「豊かな心を育む教育活動の充実」「確かな学力の定着」「体力・気力や運動能力の向上」についての取組を継続して、「豊かな心」「健やかな心身」をもつバランスのとれた子どもの姿を目指し、児童一人一人の自立への基礎を培う学校教育を行っている。

3 本校の令和3年度英語教育の実践について

(1) 1・2年生の取組

日常的に歌や絵本、ゲームなどで英語を用いる機会を取り入れ、単元で扱う基本的な語彙や表現を楽しみながら、慣れ親しむことができるように取り組んだ。

(2) 3・4年生の取組

個人・ペア・グループ・クラス全体のように、全ての児童が発話しやすい場面を設定した。さらに、単元や授業の導入段階では、豊富なインプットを目指し、ゲームや活動を通して、聞く活動を十分に取り入れた。

(3) 5・6年生の取組

児童と単元のゴールを共有し、単元の終わりに何を指すのか確認をした。また、児童が振り返り（自己評価）やすい具体的な目標を掲示したり、1時間の流れを明示したりした。

(4) 鹿屋市各地区英語教育圏推進会議について（小中一貫教育）

授業を通して、指導方法や単元の構成について意見を交換したり、各校の現状等を伝えたりしている。小学校の取組を通して、中学校で引き続き大切にしてほしいことや、中学校の現状から小学校外国語活動で大切にしてほしいこと、小、中それぞれの授業をどのように改善することで小中連携を進めていくかなどについて共通理解を図っている。

(5) 校内研修体制について

「Small Talk」を授業に毎時間取り入れ、既習表現を繰り返し使う機会をつくり、定着を図ることが課題となっている。目的・場面・状況の設定により、児童にゴールのイメージを明確にもたせるなどの指導の視点を明確にし、校内研修を通して共通理解を図り、外国語科・外国語活動の充実を図りたい。

4 特別の教育課程の実施状況に関する検証結果

(1) 自己評価（児童）の結果から

英語の授業は楽しいですか。

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
楽しい	82.4%	84.7%	61.2%	67.7%	46.2%	22.9%
どちらかというと楽しい	13.2%	8.3%	27.0%	29.4%	30.8%	55.7%
あまり楽しくない	2.9%	5.6%	9.4%	2.9%	9.2%	20.0%
楽しくない	1.5%	1.4%	2.4%	0%	13.8%	1.4%

(2) 自己評価（教員）の結果から

Q1 1年生からの英語教育の実施は、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成につながっていると思いますか。

思う	どちらかというと思う	どちらかというと思わない	思わない
42.9%	42.9%	14.2%	0%

Q2 1年生からの英語教育に期待することは何ですか。（自由記述、一部抜粋）

- ・ 低学年からの慣れ親しみにより、英語への抵抗をもたせないようにすること。
- ・ 文法や発音等を気にすることなく、楽しくコミュニケーションを図ること。
- ・ 実生活の中で使える英語を学び、英会話ができるようになること。
- ・ 英語で自分の気持ちや考えを伝えたいという姿勢を育てること。
- ・ 外国の文化への興味・関心を高めること。

(3) 保護者評価結果から

Q1 お子さんは、英語の授業が好きですか。

思う	どちらかと思う	どちらかと思わない	思わない
29.3%	46.4%	21.4%	2.9%

Q2 1年生からの英語教育に期待することは何ですか。(自由記述，一部抜粋)

- ・ 英語に興味を持ち，楽しく学ぶこと。
- ・ 日常的に英語に慣れ親しみ，身近に感じる事。
- ・ コミュニケーション能力の育成。
- ・ 中学校での英語の学習についていけること。
- ・ 異文化への関心，グローバル化への対応

(4) 学校関係者評価結果から

Q1 1年生からの英語教育の実施は，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成につながっていると思いますか。

思う	どちらかと思う	どちらかと思わない	思わない
80.0%	20.0%	0%	0%

Q2 1年生からの英語教育に期待することは何ですか。(自由記述，一部抜粋)

- ・ 英語への慣れ親しみ。
- ・ 英語への興味をもち，身近に感じる事。
- ・ 早いうちに英語に触れることにより，苦手意識を無くすこと。
- ・ グローバル化に対応した人材の育成。

5 令和4年度の取組について

(1) 1・2年生の取組

チャンツや絵カードを活用して，リズムよく繰り返しインプットできるようにするとともに，ジェスチャーを交えて相手を意識した会話ができるようにする。

(2) 3・4年生の取組

フラッシュカードやICT機器を用いて，豊富なインプットを目指すとともに，ジェスチャーや状況に応じて表情を工夫しながら相手を意識した「聞く」「話す」活動を十分に取り入れる。

(3) 5・6年生の取組

対話のモデルを見せることで活動への意欲・関心を高めたり，単元のゴールを意識させたりする。また，スキットやSmall Talkを通してコミュニケーション能力の育成を目指す。さらに，タブレット等のICT機器を活用して，「聞く」「話す」場面における言語活動の充実と評価を行う。

- (4) 鹿屋市英語教育圏推進会議と鹿屋市各地区英語教育圏推進会議（小中一貫教育）について

英語教育圏推進会議において、授業を通じた意見交換や情報交換を行う。また、11月に実施予定の研究公開の授業に外国語活動を位置づけて研修を深めるとともに、他校からの意見を参考にしながら授業改善を図る。

- (5) 鹿屋市小中学校英語弁論大会（小学校：スキット部門）について

日頃の授業において、スキットや Small Talk 等を通して、「聞く」「話す（やり取り）」活動の充実を図り、英語で伝え合う喜びを味わわせる。その成果を英語弁論大会において代表児童が発表する。

- (6) グローカル・イングリッシュキャンプについて

グローバル・イングリッシュの意義を児童や各家庭に周知し、児童の英語力向上を目指して積極的な参加を促していく。

- (7) 国立台北教育大教育実習生の受入による交流授業並びに遠隔授業について

学校の実情や児童の実態に応じて前向きに実施できるよう取り計らう。

- (8) スピーキングクエストの実施について

6年生児童を対象に、定期的なスピーキングクエストを実施することで、児童の学力の把握に努め、授業改善に生かしていく。

- (9) 校内研修体制（イングリッシュガイドブック・学習指導案等の活用）について

11月に予定している研究公開（情報教育）において、外国語活動の研究授業を位置づけて全職員で授業づくりを行う中で、外国語活動・外国語科の授業改善を図る。